

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2023(令和5)年

仏暦2566年

12月号

(第147号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

やがて仏教は滅びる!?

正信念仏偈に学ぶ
五濁悪時群生海
応信如来如実言
五濁悪時の群生海、如来
如実の言を信ずべし。

「現代語訳」
五濁の世の人々は、釈尊
のまことの教えを信じるが
よい。

『仏説阿彌陀經』というお
經の中に、五濁(五つの濁り)
が出てきます。

「劫濁」飢饉や疫病がひろ
がり、戦乱の世になる。

「見濁」自己中心の見解や
思想が広まる。

「煩惱濁」自分勝手な欲望
がつのる。

「衆生濁」風紀、身心が乱
れ、衆生の資質が低下する。

「命濁」本当の生き方がで
きなくなり寿命が短くなる。

お釈迦さまは、濁りに染まっ
た末法の世を見定めておられ
ます。

親鸞さまも、「五濁悪世」

と申され、五濁悪時に生きる
多くの人々(群生海)よ、
どうか阿彌陀さまの真実の教
え(如実言)に出遇ってくだ
さいと願われたのでした。

五濁悪時悪世界

濁悪邪見の衆生には
彌陀の名号あたへてぞ

恒沙の諸仏すすめたる

と、無数の仏さまは、五濁
の世の人々に彌陀の名号(南

無阿彌陀仏)を与え信じるこ
とをすすめられているという

和讃です。

また、他の和讃では、
釈迦如来かくれましまして

二千余年になりたまふ

正像の二時はをわりにき

如来の遺弟悲泣せよ

と詠まれ、「お釈迦さまが入
滅されて二千余年が経過しま

した。すでに正法・像法の
時代は終わり、時代は末法に

入っています。末法に生まれ
た如来の遺弟は悲しみ泣くべ

きです」と仏法が衰えていく
様子を詠まれています。

末法の世は一年とされて
います、いづれ仏法も滅び

る「法滅」の時代がきます。

末法といわれる濁ったこの世
からは逃れることはできません。
そこに生きているという
自覚を持つことから、誠なる
真実の教えに出遇えるので
す。

今年一年を振り返ってみて
も、濁り切った出来事が多い
年であったように感じます。

特に、最近では、「政治とカ
ネ」の問題がまた起こりまし
た。次の選挙のことしか頭に
ない政治家たちの、自分勝手
な欲望がつのった結果だと思
います。

また、政治家との繋がりを
問題視され、ご利益をうたっ
て多額の寄付を得た末に解散
に追い込まれた宗教集団もあ
りました。

そして、世界では戦乱の世
がまだ続いています。

私たちは、人間社会の濁り
の中に生きながら、そのこと
にすら気づかないでいるので
はないでしょうか。嘘偽り

のない真実の言葉(教え)と
の出遇いが、人生を豊かにし
てくれるのでしょうか。

浄土真宗 新 仏事のイロハ

四、法要・行事

― 仏縁を深めよう ―

「法事に参画を」

法事の参拝者は招待客ではありません

法事は、主催者である施主とその家族が中心となつて準備をし、営まれるわけですが、同時に、案内を受けて参拝する人たちも法事を営む一員であることを心得ていただきたいものです。

なぜこんなことを言うかといえ、法事はもつぱら施主が勤め、我々はそこに招待された者だ」という意識が、参拝者の中にあるように思えるからです。すなわち、施主が招待する側で、参拝者は招待された客であるというふうな、対照的に捉えがちなのです。

しかし、法事の趣旨からいうと、それは間違いです。法

事は故人に縁ある人たちが参集して、僧侶を招き、ともに仏法を聞き味わうところに意義があります。ですから、施主も、参拝した人たちも同じ立場にあるわけで、法事に集まったすべての人びとが法事を営む一員だということです。

もつとも、具体的に形に表れる準備や進行は、施主やその家族が行うこととなりますので、参拝者は側面から協力することになります。たとえば、親の年忌法要であれば、子である施主の兄弟で費用を分担してもよいでしょうし、参拝者全員に配る「お供養」の品を負担しあつたりしても



よいでしょう。

ところで、「粗供養」とか「〇〇回忌」と表書きされる「お供養」ですが、これは単なる引き出物ではありません。ご仏前にお供えし、仏さまからの「お下がり」としていただきたいものです。

参拝者が、当日お供えするものとしては、一般的に金封の「御仏前」や、お菓子、果物といった供物類があります。「御仏前」が施主へのお礼でないことはいうまでもありません。報謝の心から仏さまにお供えするものであり、供物類も同様です。

また、地域によつては「添布施」というのがあり、これは僧侶への施主の御布施に、他の参拝者が添える御布施のことです。

いずれにしても、参拝者も積極的に法事に参画してください。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」

年忌法要表

1 周忌	2022(令和 4)年	23回忌	2001(平成13)年
3 回忌	2021(令和 3)年	25回忌	1999(平成11)年
7 回忌	2017(平成29)年	27回忌	1997(平成 9)年
13回忌	2011(平成23)年	33回忌	1991(平成 3)年
17回忌	2007(平成19)年	50回忌	1974(昭和49)年

編集後記

今年の一月に始めた 正信念 仏偈のご法話も、あれこれ悩 みながら一年の節目です。引き続きよろしくお願ひします。◆感染症流行も以前の生活を取り戻そうとしていま す。しかし、仏事の様子は以前とは様変わりを感じた一年でした。◆今年一年有難うございました。良き年をお迎え ください。